

伝承

2024. 2. 27

もう10年以上が経過した。だが、今でも、まるで昨日のことのよう思い出される。思えば、常に頭のどこかにある。2011年3月11日14時46分のことである。天変地異というのだろう。この時点では、未曾有の大地震に名前がついていなかった。後に東日本大震災と呼ばれるようになった。

地震は防げない。その後の大津波も防ぎようがない。いかに被害を少なくし、一刻も早く逃げるかである。命を最優先にした行動をとるだけである。大津波が襲ってきた。福島県では、そこに原子力発電所があった。そのため、長く苦しい時間が始まった。決して元には戻せない状況が生まれてしまった。

福島県としては、東日本大震災とそれに伴う原子力発電所の事故は、現在も進行中である。様々な問題が解決するには、何十年という長い歳月を要することだろう。元に戻すというよりは、新たなものをつくり上げるというイメージだろうか。

日本全体としては、喉元過ぎれば熱さを忘れるではないが、何事もなかったかのように日常が進んでいるように感じることもある。そうしないと、やっていけないという側面もある。被災地とそうでない地域との温度差は致し方ない。しかし、細長く狭い国土しかもっていない日本の約半分とはいわないが、かなりの面積を占める地域に被害が及んだ大震災である。喉元過ぎれば熱さを忘れるとはいかないだろう。そうしてはいけない。世代をつなぐ伝承と対策が必要である。

対策にも増してむずかしいのが伝承である。震災を経験していない世代に、口で説明しても伝わらないだろう。日本人が伝承すべきことは、他にもたくさんある。その中に、第二次世界大戦、太平洋戦争がある。こちらも、口で説明しても理解はむずかしい。ただ、経験はしていなくても、戦争はやってはいけないという認識はあるため、伝わるものはあるかもしれない。

戦争に関して、伝承という点では、広島市にある広島平和記念資料館を見学するのが一番よい。きっと言葉を失うことだろう。圧倒される。胸が締めつけられる。震災に関しても、各地に伝承館がある。ぜひ訪れるべきである。加えて、震災の遺構として、〇〇小学校が、当時のまま残されている。自分が学校の教員であるためだろうか。あの日、先生方は、どんな思いで、どのように行動したのかということに思いが至る。自分事として、保存された校舎が眼前に迫ってくる。

震災の伝承とは、このようなことがあったという事実を伝えることだけではない。震災から何を学ぶかである。震災の犠牲となった多くの人たちの思いに応えることである。自分たちは、これから何をすべきか、どのように行動するかを考えることである。伝承とは、人が人に行うべき大切なことである。